



手すき和紙と漆の装飾デザインと技術の研究

芸術学部
デザイン工芸学科

准教授 **青木 伸介** AOKI Shinsuke

教員情報



キーワード

伝統、漆芸、手すき和紙、材料研究、技術研究

研究シーズの概要

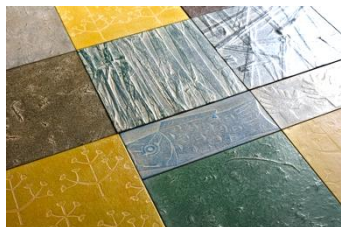
本研究は、地域の伝統工芸の知恵と素材に着目し、和紙や漆といった植物由来で環境負荷が少ない素材が持つ、耐久性、機能性、美しさといった潜在的価値を意匠という観点から見直すと共に、現代社会の課題である「資源の循環活用」を推進するものです。新たな加工技術や応用方法を開発し、彩のある豊かな社会の実現に貢献する新たな価値として実用化を目指しています。

研究シーズの詳細

◆研究例◆

2019 年度より、おおたけ手すき和紙保存会の連携し、伝統技術の継承と活用に取り組んでいます。その一環で「和紙と漆の壁面装飾タイル」を制作しました。

手すき和紙に漆を塗ることで、実用的な強度を高めています。(サンプル 1)

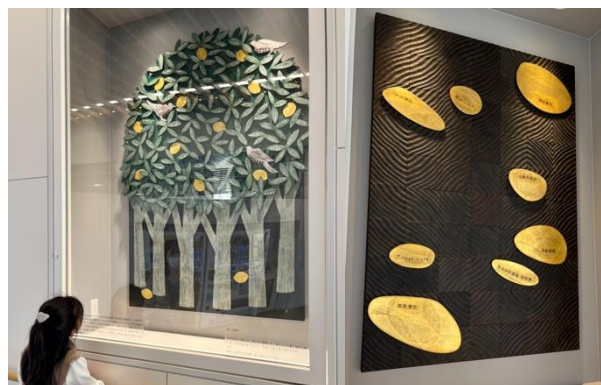


漆の塗り方やレーザー加工機による和紙の加工によって、多彩な装飾表現が可能です。(サンプル 2)



◆研究例◆

2021 年度から 2022 年度の受託研究において、2023 年 2 月に開業にした大竹駅の自由通路内に設置するモニュメントを制作しました。大竹市の風景をモチーフした全 5 点の作品には、和紙にレーザー加工で刻印し、その上から漆を塗った寄付者のネームが施されています。手すき和紙ならではの風合いが生かされた仕上がりになっています。



応用例・セールスポイント

- ◆付加価値のある建築マテリアル
- ◆病院や公共施設など、パブリックスペースの空間演出
- ◆食器や家具などのプロダクト (装飾だけではなく、手触りを意識したもの)

JR 大竹駅のモニュメントに採用されるなど、公共の場で実用化された実績あり。

【問い合わせ先】 広島市立大学 地域共創センター 〒731-3194 広島市安佐南区大塚東 3-4-1 (情報科学部棟別館 1F)

TEL:082-830-1764 / FAX:082-830-1555 / E-mail:ken-san@m.hiroshima-cu.ac.jp